３　支援活動の報告
（釜石市派遣職員）

３　支援活動の報告（釜石市派遣職員）

平成 27 年度に釜石市に派遣された本市職員による活動報告（10 名）

◆釜石市派遣職員

派遣先	氏名（職種）	（頁）
①北九州市・釜石デスク復興支援統括官（27/4/1～継続中）	竹内　邦彦（事務）	20
②釜石市建設部都市計画課都市計画係長（27/4/1～28/3/31）	瀧口　庸司（土木）	23
③釜石市復興推進本部都市整備推進室係長(26/4/1～ 継続中)	内村　英樹（事務）	35
④釜石市復興推進本部都市整備推進室主査(26/12/1～ 継続中)	長岡　睦美（事務）	41
⑤釜石市復興推進本部都市整備推進室主査(26/4/25～ 28/4/24)	藤本　敦（土木）	47
⑥釜石市復興推進本部都市整備推進室技師(26/4/3～ 継続中)	保田　隆幸（土木）	57
⑦釜石市復興推進本部都市整備推進室主任(27/4/25～ 継続中)	猪股　博之（土木）	60
⑧釜石市復興推進本部復興住宅整備室主査(26/4/25～　28/4/24)	中野　功治（建築）	62
⑨釜石市復興推進本部復興住宅整備室技師(26/4/3～ 継続中)	打越　浩二（建築）	67
⑩釜石市産業振興部水産課主査(27/4/25～継続中)	末永　芳治（土木）	71

順不同、敬称略

釜石に足を踏み入れて

派遣先	北九州市・釜石デスク
所属	北九州市危機管理室危機管理課
氏名	竹内　邦彦
活動期間	平成 27 年 4 月 1 日～　（継続中）
支援活動	釜石市への長期派遣職員総括

＜被災地東北を目のあたりにして＞

平成 27 年 3 月 29 日(日)仙台空港から車で被災地沿岸部を北上しながら釜石へ向かいました。石巻市の日和山公園から見下ろした沿岸部は瓦礫もなく、ただ一面平地が広がっていて以前ここに住宅などが建っていたとは思えない景色でした。

南三陸町では、防災庁舎が骨組みだけになっており、ここで多くの職員が津波にのまれたと聞いて思わず手を合わせました。

陸前高田市では巨大なベルトコンベアーが縦横無尽に走っておりその片隅に「奇跡の一本松」が、けなげに立っていました。

いよいよ釜石市に足を踏み入れました。45 号線を北上し市街地に入ると建物も少なく空地が点在していました。

震災から４年経過しているので復興はある程度進んでいると思っていた私は現状を見てショックでした。

しかし、この釜石で１年間仕事をさせていただけることは貴重な私の財産になると思い仕事に臨みました。

＜釜石での業務＞

私の業務は北九州市から派遣されている職員の統括と釜石市と北九州市の連絡調整(文化交流等を含む)の仕事だと説明を受けて来ました。

最初に始めたのは、釜石市に派遣されている職員は別棟３ヶ所の庁舎で業務を行っており、私は最低１日１回職場を廻り職員に声をかけることをノルマとしました。

そのことで､職員とのコミュニケーションを図ることができたのではないかと思っています｡また、北九州市派遣職員以外の職員の方たちからも声を懸けて頂くようになり、少しずつですが受け入れていただけたのかなと思いました。

北九州からの視察が意外と多いのに驚きでした。年間１５件あり対応は大変でしたが、釜石のことを学ぶ機会が増えたことは自分自身にとってはプラスになりました。

釜石に視察に訪れて復興状況を直接見ていただけることが被災地の風化を防ぐことになり、市議会議員が視察で釜石の状況を知っていただき、議会等で釜石への更なるバックアップを推し進めていた

だいたことは、釜石市長を始め多くの方からお礼のお言葉を頂きました。

＜交流事業＞

北九州市と釜石市の交流では 10 月に行われた「釜石まるごと味覚フェスティバル」に初めて参加し、北九州市から「くろがね羊羹」「じんだ煮」等々の物販を「食の魅力創造・発信室」の協力を頂き行うことができました。

11 月には小倉南区の農事センターで行われた「農林水産まつり」には釜石市の職員 7 名が参加し、サンマの振る舞いを行っていただきました。土日 2 日間で 2000 匹のサンマを休む暇もなく焼いて頂きました。

1 月には「かまいし冬の味覚まつり」が開催され、北九州市から「絆焼うどんプロジェクト」が参加し、北九州市立大学学生 5 名を含む 7 名の方が焼うどんの実演販売を行いました。

また、売上金等 208858 円を子ども達のために使用して頂きたいと釜石市長にお渡ししました。

3 月には北九州市民を対象にした「被災地視察・世界遺産見学ツアー」が行われ、37 名の市民の方が釜石を訪れました。5 年経過しましたが、未だ多くの釜石市民が不自由な生活を強いられている仮設住宅を見ていただき、復興が道半ばであることを知っていただきました。旧大槌町役場で津波被害の大きさを見ていただきました。

昨年、世界遺産に登録された「橋野鉄鉱山」では雪が残っており、参加した子供たちが雪と戯れていました。

今後も、この様なツアーが実施されれば北九州市と釜石市の鉄の絆が、市民を含めた形で更に強くなって行くのではないでしょうか。

＜釜石の復興状況＞

昨年 4 月以降、復興は着実に前には進んでいます。釜石市役所の周辺も住宅や店舗も建設され街らしくなってきました。復興住宅も建設が進んでおり、今年の夏ごろまでには復興住宅に多くの方が移れるのではないでしょか。しかし、被害の大きかった鵜住居地区では土地の嵩上げに時間を要しており、自力再建で住宅を建設するのは、平成 30 年頃になる予定です。

5 年経過しましたが、市民生活の基盤となる住宅建設が当初計画からかなり遅れています。いろんな要因が重複したためで、その説明会が市民対象に行われましたが、遅れる事への不平不満の声が出ないのには驚きました。釜石市民は忍耐強いと思います。

＜私の感じた釜石＞

釜石に来て感じたことは､山が多く平地が少ないこと､海がとてもきれいで自然が多いことでした。

そしてまず、最初に驚いたことは野生のシカが街中を散歩していること、天然記念物の日本カモシカに出会ったこと、防災無線で熊の出没情報が流れること(幸い熊には出会いませんでした)、日出日没が北九州と時差 1 時間、日出は早く日没も早く 12 月は午後 5 時には外は真暗です。また、気温は

夏涼しいと聞いていましたが、なんと 7 月 15 日には 38.4 度(全国 4 位)とこれまでに経験したことない気温の上、事務室にはエアコンが設置されていないため、1 日中汗が止まりませんでした。

地震は昨年の 4 月から今年の 3 月末までに震度 1 が 86 回、震度 2 が 36 回、震度 3 が 8 回、震度 4 が 1 回合計 131 回の地震がありました。震度 1 は分らない時が殆どで、震度 2 は揺れているなと思う程度、震度 3 は寝ていても目が覚めるほど揺れ、住宅がきしみます、震度 4 は住宅が壊れるのではないかと思うほど激しく揺れます。

＜おわりに＞

この 1 年間を振返ってみると、派遣された職員は復興事業のピーク時に当たり、職員不足もあり過多な業務量で部署によっては時間外勤務や休日出勤も当たり前のように行っていました。こうした状況の中でも職員は愚痴もこぼさず、釜石市民の笑顔を取り戻すために、早期復興を目指して頑張っています。

このような状況の中、28 年度は派遣職員を 1 名増員し、11 名の派遣職員で釜石の復興の手助けをさせていただくことになり、釜石市長をはじめ幹部職員から感謝のお言葉を頂きました。

復興は今、蕾の状態が続いています、花が咲くにはもう少し時間がかかりますが、北九州市が支援を続ける限り「復興の花」は絶対に咲きます。できれば北九州市からの人的支援の継続を引き続きお願いしたいと思っています。

釜石市派遣を通して

派遣先	釜石市建設部都市計画課
所属	北九州市危機管理室危機管理課
氏名	瀧口　庸司
活動期間	平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
支援活動	釜石市都市計画業務支援

①現地での業務

平成２１年３月１１日の東日本大震災津波直後の派遣要請を、家庭の事情で断らざるを得ず非常に残念な思いをしましたが、今回、再要請があり、釜石市に晴れて派遣させていただきました。私が配属された釜石市の都市計画係は、景観審査、開発許可、土地区画整理施行区域の建築許可、都市計画及び都市計画道路整備、広場整備や公園整備などを行っており、そのうち復興交付金事業約２０億円の橋梁を伴う都市計画道路港町２号線道路整備や釜石駅広場整備、その他公園整備などの工事関連を重点的に担当させていただきました。

②現地での活動経過

【港町２号線道路整備事業について】

東日本大震災の津波により、釜石市の商業発展の中心を担ってきた東部地区が甚大な被害を受けました。復興まちづくりにおいては、従来の中心的機能の復旧に加え、新たな都市機能の誘導を図りつつ拠点性の向上に努める地区となっております。

本事業は、復興事業により面整備を図り、東部地区の商業・産業・物流機能を高めるとともに、新たな商業集積による発生交通量の処理にも寄与し、流入の増加が見込まれる来街者の避難路経路の一つとして整備を図るものであります。

■復興まちづくり基本計画における該当箇所及び概要

○人やもの、情報の交流拠点づくり

釜石市を含む三陸地域の交通ネットワークの形成に取り組み、人やもの、情報の流れを確保し、その結節点となる交流拠点の実現を目指すとともに、港湾を核とした地域の復興を目的に釜石港の整備と物流活動の促進、さらにこうした交通ネットワークを活用した商業と交流空間の機能的展開にも取り組み、復旧から力強い復興への足がかりとします。

○生命最優先の減災まちづくりの推進

津波避難ビルや避難施設の建設により、安全な避難場所と避難経路を確保し、津波から逃げることを前提とした避難誘導体制を構築します。

○新産業と雇用の創出

ものづくり産業の復興に向けて、浸水地域や三陸縦貫自動車道インターチェンジ整備予定地周辺を新たな産業用地として有効活用し、産業の創出・集積及び産業誘致を推進し、地域経済の活性化と安定かつ持続的な雇用の創出を図ります。

○商業と交流空間の機能的展開

三陸縦貫自動車道等の整備を踏まえた交流人口の拡大に向けて、中心市街地東部地区における、例えば新日本製鐵所「中番庫」の活用も含めた新たな商業空間づくりの検討など、地域の特性を生かしたにぎわい創出の機能的展開を図ります。

当該事業は、以下の２つの工事によって進められております。

①　工事名：港町２号線道路整備（その１）工事（主に、橋梁下部工・道路工）

契約金額：１，００３，２８５，４４０円

請負者：(株）小澤組

工期：平成２５年１２月２５日から平成２９年３月２５日まで

工事内容：

橋長Ｌ＝９１ｍ、橋台工Ｎ＝１基、橋脚工Ｎ＝２基、場所打杭工Ｎ＝４８本

仮桟橋工１式、舗装工＝１，３４２㎡

②　工事名：港町２号線道路整備（その２）工事（主に、橋梁上部工）

契約金額：９０４，７７１，０８０円

請負者：(株）小澤組

工期：平成２７年１月２３日から平成２９年３月２５日まで

工事内容：

橋長Ｌ＝９１ｍ、上部工１式、橋台工Ｎ＝１基、場所打杭工Ｎ＝６本

平成２８年３月時点では、４０％の進捗であります。橋梁の橋脚２基中１基、橋台２基中１基が完成しました。平成２８年度は残りの橋脚・橋台と橋桁の架設を行い、丁度１年後の平成２９年３月が竣工の予定であります。

港町２号線道路整備工事（甲子川横断部：橋梁工事Ｌ＝９１ｍW＝１５ｍの状況）

（平成２８年１月撮影）

平成２７年７月の復興交付金事業会計検査においては、受検に向けて予想質問集を作成し、万全な体制で臨んでいたところ、釜石市は震災後初めての会計検査ということかどうか分かりませんが、会計審査員ＯＢによるリハーサルがありました。

しかし、“残念ながら“、担当の道路整備は工事中ということかもしれませんでしたが、会計審査から外れました。

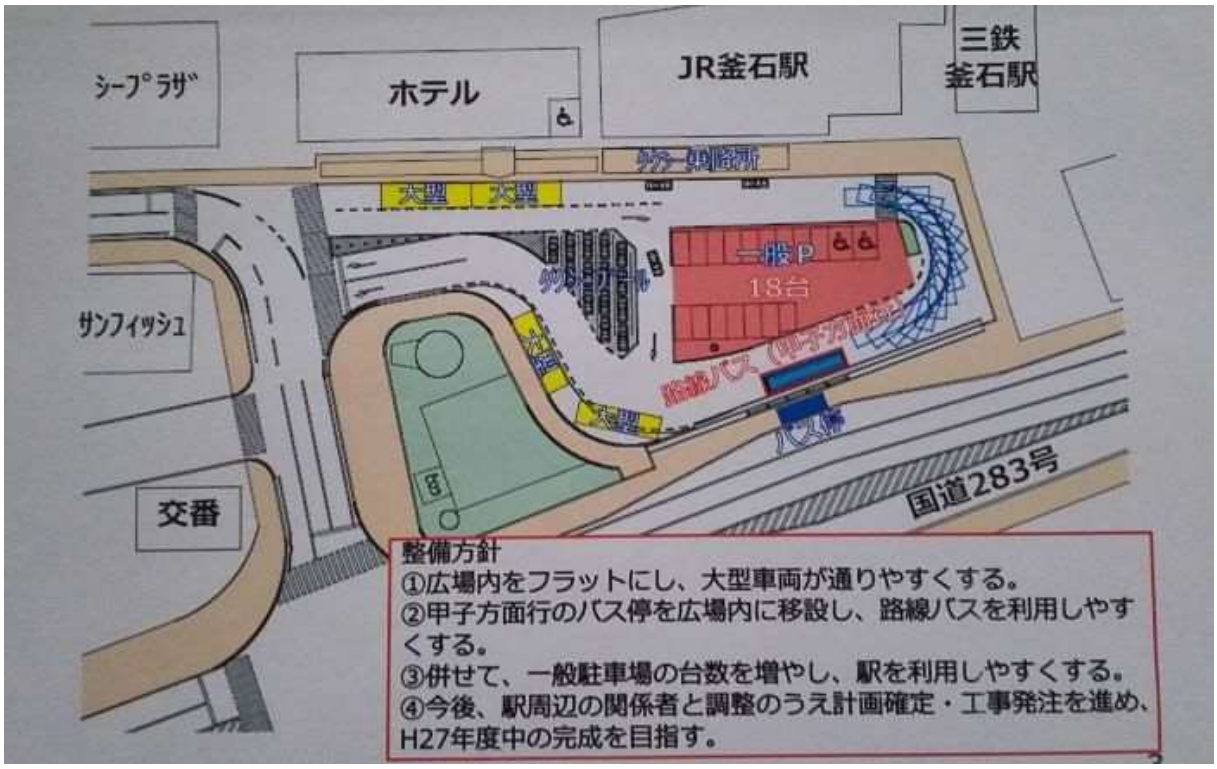
【釜石市駅前広場改修事業について】

釜石市は、世界遺産登録や２０１９年ラグビーワールドカップ開催地の効果による交流人口の増加が期待されるなか、平成２８年は国体が開催されます。そこで、全国各地から釜石を訪れる皆さんの増加に対応するため、釜石駅前広場のロータリーを改修するなど、釜石駅前が従来以上に利便性の高い場所になるように改修します。

改修前の釜石駅前の状況

改修前平面図

改修計画平面図



【見えてきた復興】

“マンパワーという動力がなければ復興という車は早く走れません。”

復興工事の協議は、工事の工程やその進捗状況が主であります。課題は人手不足です。型枠工、鉄筋工、大工などの熟練工は勿論、作業員、交通整理員も不足しています。この人手不足は労務費の高騰を招き、資材そして事業費の高騰へと連鎖していきます。そういう中、冬の釜石市の沿岸市街地は雪が少なく工事が止まるということがあまりないので、他県ナンバーの工事車両もあって、現場に活気があります。特に、津波でほとんどの建物が流れ去った鵜住居（うのすまい）地区や平田（へいた）地区は、地盤の嵩上に年月を費やしていましたが、その目途がつき、やっと復興の実感が沸いてくる時期にきています。

鵜住居地区の状況（平成２８年１月撮影）

地盤の嵩上が完了し宅地の区割りと範囲が固まってくると、都市計画課で都市計画審議会を実施し、見直しを含め計画区域の審議を行います。

都市計画審議会

今年は、橋野鉄鉱山世界遺産登録によって釜石市の存在を世界に知らしめました。その釜石市の周辺では東北横断自動車道釜石秋田線一部（遠野～宮守）開通など高規格道路網の整備が着々と進んでいます。それに合わせ、大手運輸会社の進出、そして釜石港への外国コンテナ船乗り入れなど物流拠点へと向かっております。

三陸沿岸都市会議[三陸沿岸７市（気仙沼、陸前高田市、釜石市、宮古市、久慈市、八戸市、大船渡市）]はリアス･ハイウェイ早期実現大会を催すなど、青森、岩手、宮城の３県沿岸地域の「三陸縦貫自動車道」、「三陸北縦貫道」及び「八戸・久慈自動車道」を震災からの復興道路と位置付け、その整備促進を図っています。

※左から、気仙沼市長、陸前高田市長、釜石市長、宮古市長、久慈市長、八戸市長、大船渡市長

【その他の活動について】

“何成吾業　苟図吾心　勿施於人　惟吾為喜”

（活動は計算じゃない。強いるものでもない。活動は喜びである。）

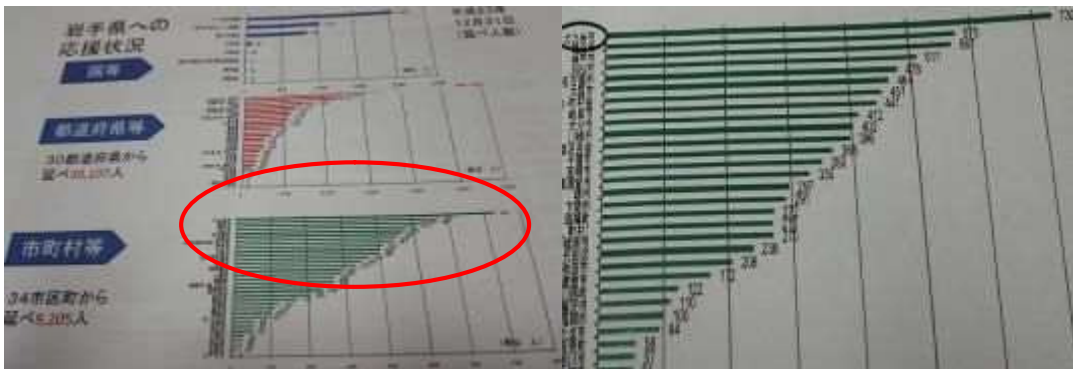
土･日曜日などの休日の過ごし方をどうしたらいいか苦慮しましたが、釜石市福祉協議会のホームページに目が止まり、即、ボランティア活動の登録をしました。社会福祉協議会のボランティア活動は金･土･日曜日に行われており、被災者仮設団地の住人の引越しや、空き家になった同団地の部屋の掃除をさせていただきました。

どこもそうですが、地方で、まして津波で働く場所を流されたところでは、若い人たちはやっぱりこれからの人生のため、職を求めて町を離れ、そして必然的に高齢化が進んでいきます。はっきりいうと、仮設団地は高齢者ばかりといっても過言ではありません。

一人暮らしで、特に年金で細々と生活している高齢者の引越しは、事実上無理なため、私が行っている引越しボランティアは地域の方に非常に喜んでいただいております。

東日本大震災津波５年目シンポジウムに出席したときに、北九州市が岩手県への延べ支援職員数が抜き出ていると説明がありました。これは北九州市の誇りであり、今までの派遣の皆様、先輩諸氏そして派遣を続けられる方々に尊敬の念を覚えます。

東日本大震災津波５年目シンポジウム（自治体間の広域支援について）



岩手県への応援状況の報告（市長村等では、北九州市が目立つ）

釜石市橋野鉄鉱跡世界遺産登録

釜石市情報交流センター開所式（センター内にミッフィーカフェも出店）

釜石よいさ祭り

釜石秋祭り

釜石みなと祭り

釜石味覚フェスティバル

超ミニサイズの若戸大橋？（小川川に架かっている人道橋）

③　現地での業務で困難であった点や改善すべき点

現在の復興の工程では、ほぼ地盤の嵩上が完了し、ライフラインの整備及び建築工事が急ピッチに進む時期になっております。釜石市の技術職員を補完すべく監督業務などは派遣職員の応援で対応しておりますが、膨大な工事の工期厳守という突貫に近い工事を進めているなか、本当に目が行き通ってるか不安に思うことがあります。施工管理業務を民間のコンサルタントに委託する工事もありますが、この民間のコンサルタントを信じきってしまうことは危険であります。何ごとも疑問を呈することができる技術職員、工事途中の中間技術検査などを通して客観的に施工の盲点を見極められる検査員が必要であり、釜石市にも北九州市の技術管理室のような組織が必要な時期に来ているのではないかと思います。

④　活動を通して印象に残ったこと

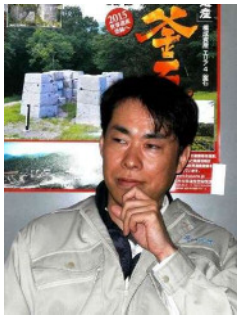
釜石市民は、温和でやさしい方々ばかりです。「復興が５年もかかり市民がなかなか元の生活に戻れない。それまで、生きているか分からない。」ということをテレビなどの報道でよく聞きますが、みんながそういう不満を愚痴ってばかりいるわけではありません。ある住民の集まりで、「全国の方々によって、復興のために集中的に支援をしていただいてる。ありがたいことだ。」と感謝される方々がほとんどだと思います。一方、自治体においては、長期に渡る区画整理や復興住宅建設などで、「仮り」とした移住先が第二の故郷になった市民などによる人口の激減（人口減は北九州市も他人事ではありません）で危機感が漂っています。だが、自治体存続のために人口減を止めるのでしょうか？誰のための自治体なのでしょうか？人口の増減は自治体の「存在意味そのもの」のバロメーターだと思います。釜石市に派遣されますと、どうしても釜石市を贔屓目で見てしまいがちですが、人･もの・仕事（企業）を市長村同士での奪い合いを避け、大きな目で、お互いの住民のいいところ、地勢的な優位性、そして各々の役割を認め合って総合的に活力を見出すことが大事だと思います。これから更に県の手腕が試されるところだと思います。

【最後に】

東北は、風光明媚で温泉郷がいたるところにあります。釜石は特に、夏は割りと涼しく、冬はドカ雪がめったに降らないなど季候のいいところです。老後、(もう既に老いが近づいていますが)、住みたいところの候補地であります。

ところで、業務においてあまり思ったようにお役に立てなかったことをお詫びいたします。一方、ボランティア活動等を通し、多くの釜石市民とのふれあいが出来、沢山のお友達がつくれた機会をいただいたことを感謝いたします。「どこから、来たの？」と聞かれて、「北九州市からです。」と答えると、すぐ和やかな雰囲気になります。これも、いままで派遣されてきた諸先輩のご尽力のおかげであり、北九州市の知名度と好感度は非常に高いものになっていると思います。北九州市に帰ってもこの交流を続けたいと思います。最後に、様々な方々のお力添えやアドバイス、そして「元気」を頂き無事に１年を迎えました。感謝いたします。

釜石 Blue ～第２章～



派遣先	釜石市復興推進本部都市整備推進室
所属	北九州市危機管理室危機管理課
氏名	内村　英樹
活動期間	平成 26 年４月１日～　（継続中）
支援活動	釜石市　用地買収業務

「Wi-Fi がつながらない時くらいかなー」

釜石市派遣の１年目終わりに、私が不在で困ったことはないか妻に質問した時の回答である。

我が家ではたびたび Wi-Fi が途切れることがあり、そのたびに再設定するのは私の役割となっていたためである。

さて、本題に入る。

【事業】

釜石派遣２年目で昨年と同じ事業を担当することとなったため、事業について昨年度と重複するが、あらためて説明させていただく。

釜石市では被災地区を２１に分類し、それぞれ被災状況や地域の特性に応じて「安全確保」「住まいの再建」「避難の仕組みづくり」を３つの柱に復興まちづくり基本計画の策定を行っている。

この２１地区のうち、私の担当地区は「東部地区」、事業名は「釜石都市計画一団地の津波防災拠点市街地形成施設事業」である。

震災前は、狭い敷地に住宅や店舗などが混在・密集している港町と、釜石港西側には釜石市役所、商店街や飲食店多く立ち並ぶ中心市街地だった地区。

その中心市街地を国道４５号線が南北に通っている。事業はこの道路を境に東側、西側と大きく分けられている。

東側は事業区域内については、必ず買収を行わなければならない区域。西側は任意で買収する区域である。

○国道４５号線東側

西側の任意買収については、昨年度でほぼ終了したため東側について説明させていただく。

釜石湾の北側にあたる地区であるが、市が全面買収し最大で７ｍの嵩上げを行う。

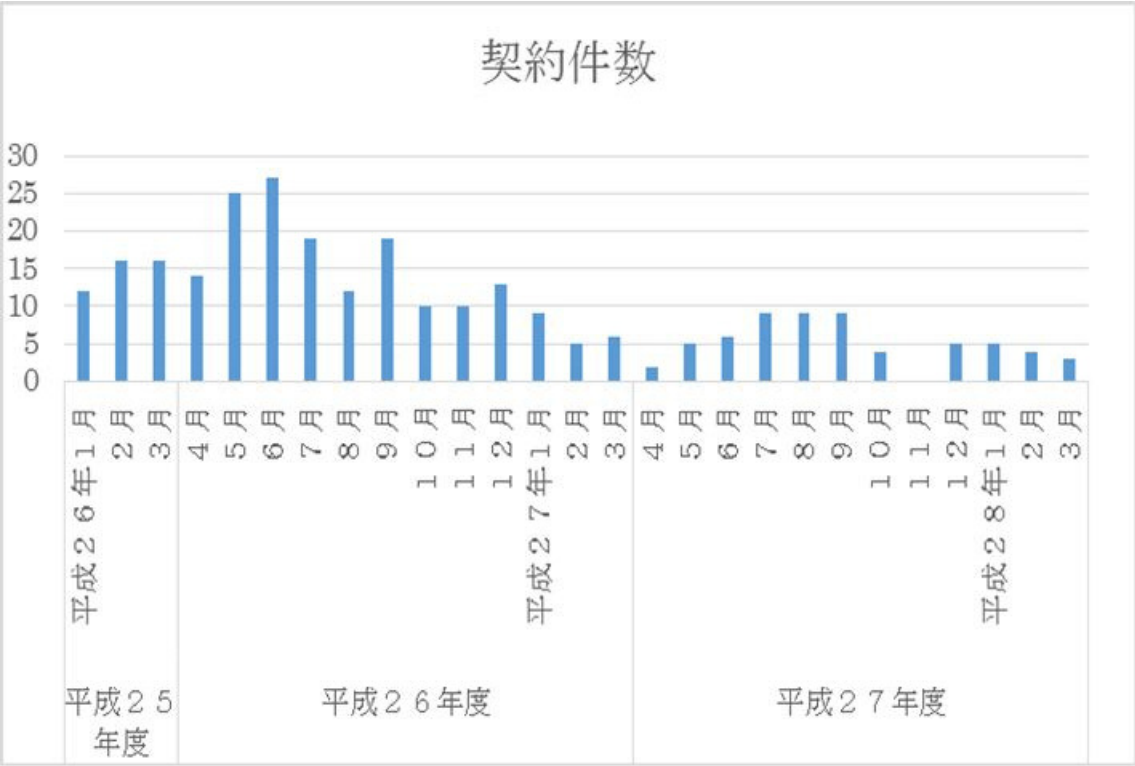
地区全体の買収筆数は全体で３４１筆、44,400 ㎡。区域全体を嵩上げして浸水を防ぎつつ防潮堤としての役割も果たす。

嵩上げし、安全になった土地は新たに区画割りを行い、希望する元の住民に再分譲、または借地を行うというもの。

【用地取得状況】

平成２６年１月から取り掛かった用地買収であるが、グラフのとおり現在は進捗が伸び悩んでいる状況である。平成２７年度末時点で筆数での取得率は８４．８％となっている。

取得困難の主な理由については、移転先（仮移転先）の選定が難航しているもの、相続人が多数であるもの、相続人間での持分協議が整わないもの、相続人のうち行方不明者が複数いるものなど、相続が発生している案件が多い。



【再分譲地】

平成２７年度に用地買収と並行して行った業務に造成完了後の再分譲地の決定がある。再分譲というと分かりにくいかもしれないが、区画整理事業における換地のイメージである。もとの所有地の近くに、できるだけ同じ条件の土地を再分譲地を提示し、決定してもらうというものである。

平成２７年６月からもとの地権者と個別面談により再分譲の希望を確認したうえで、位置、形状、価格等を提示、説明し、再分譲地を決定していく。造成後の宅地の価格は平均で１０％程度価格が上昇することが見込まれることもあり、１回の面談で同意を得られないことも多く、何度も繰り返し面談を行う必要があるなど、相当な時間と労力を要することもあり大変な作業ではあるが、再分譲地を確定することにより用地買収に応じてもらえるなどの効果も大きかった。

平成２５年にアンケート調査を行い再分譲地を希望するといっていた地権者のうち、今回の面談等で再分譲地不要へと変更になった方が２０％以上であった。

これは、もとの街に戻ることを諦めた方が２０％以上となったということである。

昨年度のレポートでは他の自治体の派遣職員について記載したが、今回は用地買収関連における釜石市と北九州市の体制や業務についての違いを記載してみたいと思う。

なお、私が北九州市で用地買収業務を行っていたのは２０年近くも前であり、記憶も曖昧で、現在では変わっているかもしれない。また、私の所属する復興推進本部都市整備推進室都市拠点復興係、及び津波復興拠点整備事業（東部地区）に限っての記述であることを予めご了承願いたい。

【担当】

北九州市では係長１人、職員２人の３人１組体制で、業務を割り振られている。

一方、釜石市において主担当は１人。

例えば、９０筆の買収を行う必要があるとして、北九州市では９０筆を係全体で担当し、釜石市では担当者３人にそれぞれ３０筆ずつ担当させるというイメージである。

釜石市においても交渉は２人以上で行う必要があるため、交渉の時に誰か空いている職員にお願いして同行してもらうことになる。

実質は１人で交渉にあたっているようなものであり、用地買収ができない場合は担当者の責任となる。

平成２６年に用地買収開始当初は、用地交渉を業者に委託し、市の職員は契約時に同行し立ち合うだけだというものであった。早く土地を売却したいという地権者にはそれで十分であったが、交渉を進めていく中で計画の詳細な説明や、判断、責任を求められることが増えていった。委託業者では交渉中にはそれができなかったため、市に確認してから再度交渉を行わなければならない。

また、業者では信頼できないという地権者も出てきたため、最終的に職員が交渉を行う現在の体制になったという経緯がある。

【土地価格】

用地交渉を開始するにあたっては土地価格を決める必要がある。

この土地価格について、北九州市においては市有財産審査委員会や部内の調整会議などで価格の承認を得ることとなっている。また、土地売買契約の起案における土地価格を証するものとして、北九州市では承認書を添付すればよい。

釜石市において土地価格は決裁により決定する。震災以前は北九州市同様に委員会等への付議が必要であったが、復興事業については用地取得が膨大な数にのぼるため、これを省略することとなったとのことである。

また、時点修正については北九州市では半年ごとに行っているが、釜石市では１０月１日を基準日に１年毎に行う。いずれも市長決裁である。

土地は土地価格決裁の全てを添付することとされており、不動産評価鑑定書、時点修正の意見書、価格比準表等を添付する必要があるために分厚い決裁となる。

【補償金】

建物補償や損失補償のための調査は、補償コンサルタントに委託することは北九州市も釜石市も同じである。

地権者等への補償金の説明が必要な場合、補償コンサルタントに同行してもらい説明をしてもらうことも可能である。

なお、補償金額の決定は額にかかわらず復興管理監（部長職）決裁による。

【登記】

北九州市においては、相続調査・相続持分の計算・遺産分割協議書の作成・分筆・嘱託登記・抵当権抹消など全て登記係からお膳立てを整えてもらった後で、用地担当者は交渉を行い、地権者からは登記関連書類に押印してもらい、それを登記係に提出すればよかった。

釜石市においても登記関連の担当者はいるものの、取りまとめて法務局に持ち込む前に軽くチェックを行ってもらえる程度であるため、登記関連業務のほとんどは担当者が行わなければならない。

【税務署協議】

北九州市では、用地管理係が窓口となり税務署と協議を行っている。

釜石市においては、新たに事業の追加や変更がある度に用地担当者が行っている。

事前に税務署担当者と相談を行い、事業計画書を確認し、土地価格等の決定後に提出書類について決裁を経て提出するという、やってみて意外と大変な作業であることが分かった。

【研修】

北九州市において私が所属していたころは、配属後に用地初任者研修から始まり、徐々にステップアップしていく研修がある。釜石市では各自治体から用地や区画整理の経験者が来ていることもあるのだろうが、私の場合は「用地交渉ハンドブック」と「用地交渉の実務ノウハウ集」を渡されただけであった。たまに岩手県による用地研修が開催されるが、それに参加する場合は、片道２時間半の運転を覚悟しなければならない。

【まとめ】

北九州市では役割分担が明確であり、非常に効率よく業務を進めることが可能であった。一方、釜石市は新しく始まった復興業務ということもあり、役割分担が不明確な点、業務が属人的で北九州市と比較すると効率的であるとは言い難い。しかし、業務は幅広く、裁量も大きいため、やり甲斐もあり、多くの知識を吸収することができていると感じている。

釜石派遣２年目の冬、妻にあらためて聞いてみた。２年間私が不在で困ったことはないかと。
「うーん・・・Wi-Fi がつながらんことしか思いつかんねえ。」

＜その後＞

あまりにも頻繁に Wi-Fi が切れるようになったため、妻が業者を呼び見てもらったところ、私がつないだ当初の配線が間違っていたことが分かり、その後再び Wi-Fi が切れることはなくなったという。

唯一頼りにされていた Wi-Fi の設定さえ間違っていた私に帰る場所はない。

釜石市派遣３年目が決まった瞬間である。